

全国協議会 ニュース

2018年3月1日発行 第309号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）
http://www.marow.or.jp E-Mail:office@marow.or.jp

骨髄バンク財政問題は解決へ前進 ～非血縁者間移植 1 件に 10 万円加算～

2月7日(水)、厚生労働省中央社会保険医療協議会(中医協)の総会が開催され、本年4月から医療機関に支払われる診療報酬点数が決まりました。

骨髄移植関係では、公益財団法人 日本骨髄バンク(以下、骨髄バンク)の安定的な事業運営を確保するため「非血縁者間の骨髄移植・末梢血幹細胞移植1件につき10万円が加算」されました。移植1件につき55万円が移植病院から骨髄バンクに支払われることになり、およそ1億2,000万円の収入が加わります。これで骨髄バンクの財政問題は解決へ前進し、患者負担金値上げをする必要はなくなりました。

3年前、私たち全国協議会は、骨髄バンクの財政危機に対応した経費削減策はすすめるべきだが、「患者負担金の値上げ」には断固反対を表明しました。こうした動きに理解を示された「骨髄・さい帯血バンク議員連盟」(会長・野田聖子衆議院議員)の力強い国への働きかけ、マスコミや学会等の支援の動きに、国(厚生労働省)が応えてくれた成果です。骨髄バンクには、増額された公的資金を有効に活用し「患者負担金を軽減し、コーディネート期間短縮化を早期に実現すること」を強く求めます。

財政赤字の要因

骨髄バンクは、2014年度決算で1億円の大赤字を出し、財政問題が表面化しました。赤字は、収入の寄付金が前年度より1億2,000万円も減少し、支出では人件費、旅費交通費、通信運搬費、支払手数料などが前年度より6,600万円も増加したことが要因でした。骨髄バンクでは、財政改善のための支出削減策を実行し、かなりの節約効果をあげました。2015年度、2016年度の赤字額は1,700万円、1,300万円に縮小されています。

患者への押し付け反対

しかし、収入増加策として、一番先に弱い立場の患者に負担を押し付ける案も打ち出し、患者グループやボランティア団体等との議論もせず、議員連盟との協議もないまま、患者負担金値上げを実施しようとしてきました。私たちは、値上げ案は、さい帯血移植等への移行を加速させるだけ、幅広い関係者

と議論が必要。何よりも「率先して身を切る経費削減対策が第一」と考え、反対を表明しました。

また、骨髄バンクには各種の患者支援基金(約4億円)があることから、医療保険などが増額されるまでの間、当面はこの基金などを活用することも検討するよう提案しました。

移植数減少の要因

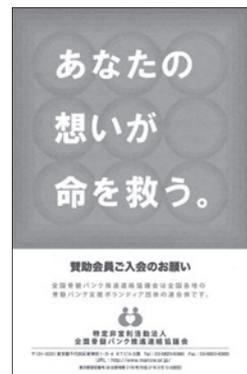
そうした中、移植数は、2013年の1,360件をピークに減少に転じ、2015年からは急激に減少傾向が強まり、2年間で100件以上も減りました。それまで移植数は、毎年右肩上がりの増加傾向で、収入も移植数に伴って増加していました。移植数減少は収入減額に直結します。移植数減少は、この10年間、コーディネート期間短縮化ができなかったことから、移植まで待てない患者さんは、さい帯血移植や血縁ハプロ移植(HLA型が半分適合している)に移行していることが要因となっています。

財政構造、社会的な議論

移植数の減少をくい止め増加させるためには、コーディネート期間短縮化や末梢血幹細胞移植への取組みも提案をしてきました。それと同時に、骨髄バンクの脆弱な財政構造が一番の問題であること。コーディネート期間短縮化などは、骨髄バンクや医療機関だけでなく広く議論すべき問題だと関係者に訴えてまいりました。

今後とも、これらの課題については、継続して議論し解決に向けて努力してまいります。

賛助会員募集



私たちの活動を支える賛助会員を広く募っています。お問い合わせは、事務局までお願いします。

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

(MONTHLY JMDP(2月15日発行)より抜粋)

■日本骨髄バンクの現状(2018年1月末現在)

	12月	1月	現在数	累計数
ドナー登録者数	3,010	3,021	483,069	726,399
患者登録者数	201	250	3,736	52,952
移植例数	85	91	—	21,579

■1月の区別ドナー登録者数

献血ルーム/995人、献血併行型集団登録会/1,979人、集団登録会/0人、その他/47人

■1月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 4,287人/20代 72,173人/30代 138,014人/40代 207,048人/50代 61,547人

■1月の20歳未満の登録者442人

■1月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数:434件

注)数値は速報値のため訂正されることがあります。

地区普及広報委員・説明員研修会



骨髄バンクの説明員研修会が、1月から3月にかけて全国7地区（関東甲信越、近畿、九州、中部、東北、中四国、北海道）で開催されています。

骨髄バンクは3年前に財政問題が表面化し、経費削減対策が実施されました。普及広報部門では、①説明員の活動日当3,000円が2,000円に削減、②地区普及広報委員・説明員研修会の開催中止、③骨髄バンクニュースのドナー登録者への郵送を年2回から1回に削減、などにより年間4,000万円規模の削減が行われました。

ようやく財政的な困難も解決に向かったことから、今年度は両研修会が

3年ぶりに開催されました。

「私が参加した1月8日（月・祝）の関東・甲信越地区（東京会場）は、午前中は30人の地区普及広報員が参加しての研修会があり、午後に説明員研修会がありました。写真のように120人と多数の参加者で会場は溢っていました。骨髄バンク事務局の説明後、各団体の活動事例報告があり、私も千葉の活動紹介をしました。各報告後には熱心な質問があり、各地で登録会やイベント開催を担っている皆さんの熱気を感じ、大いに刺激になる一日でした。」

（千葉の会 梅田正造）

ことで、献血担当者との情報共有がスムーズになり、献血ボランティアとしても登録し、協力しあう良い関係になっていること。課題となっている若年層への取り組みとして、大学等の会場も紹介してもらい増えているとの発表がありました。説明員不足や高齢化の問題もあるが、これからもすべての患者さんに最適なドナーが見つかるよう、各地の事例を参考に活動していきたいと思いました。

ところで、骨髄バンク事務局から、財政状況はこれからも困窮が続くような説明でありました。これについては、説明員研修会後に開催された「近畿地区ブロックセミナー」において、全国協議会の田中理事長から「国庫補助金の増額や診療報酬点数改定などにより、赤字は解消される」との説明があり、各地のボランティアの方々は、見解の違いに驚かれていました。また、田中理事長は、「全国協議会としては骨髄バンクの財政安定化のために、経費削減やコーディネート期間短縮による移植数増加への取り組みをこれからも求めていく。」と話されました。（近畿地区理事 浅野祐子）

ブロックセミナーの開催報告

全国協議会は、骨髄バンク説明員研修会の機会に合わせて、各地でボランティア活動を行っているグループに参加を呼びかけ「ブロックセミナー」を開催しています。全国協議会に加盟していない団体・個人も参加していただいています。今回は、近畿地区から説明員研修及びブロックセミナー報告、九州地区からブロックセミナーの報告です。



近畿地区

1月20日（土）、大阪府赤十字血液センターにて、「日本骨髄バンク近畿地区説明員研修会」が3年ぶりに開催されました。骨髄バンク事務局から、現状や今後の取り組みが説明されました。その後、各地の活動での成功例として「滋賀骨髄献血の和を広げる会」

から、どこの団体でも悩みのタネの説明員不足対策として、リタイアされた方が集まる大学での説明員募集会の実施、日赤、県担当者との連携による登録会会場の拡充、大学等への推進活動でドナー登録者を増やしているとの発表がありました。

大阪では、団体事務局が赤十字血液センターと同じ建物の中に移った

九州地区

福岡市で1月27日（土）に、骨髄バンクの説明員研修会が開催されました。その終了後に引き続き「九州地区ブロックセミナー」を開催いたしました。かなり周到に参加を呼びかけましたが、参加者は26人と少ないと感じましたが、非加盟団体からも参加が得られたことは嬉しいことでした。

内容としては、加盟団体である福岡子どもホスピスプロジェクト理事長である九州大学の濱田裕子先生から、その活動内容を紹介いただき、子どものホスピスならではの課題があることを知りました。各地からのトピックスでは奄美大島でのドナー登録活動が進んでいることの報告がありました。九州は島が多いですが、沖縄、奄美と島でのドナー登録数が抜群に多くなっています。

また、田中理事長からは全国協議会の今後の方向性を話していただき、ひ

ところの緊迫財政が少し落ち着いてきた印象を持ちました。今回は、時間的な制約から、各地の報告が少なめでしたが、セミナー終了後には懇親会で交

流を深め、その後は三々五々で博多の夜は更けていきました。

(九州地区理事 辻枝雄)

中野中学校2年生が来所 ボランティア活動を聞き取り調査



2月9日(金)東京都中野区立中野中学校の2年生が、午前5人・午後6人、全国協議会事務所に来訪されました。中野中学校では、総合的な学習の時間で「社会貢献活動とは、ボランティアとは何か」を調査し、自分たちは何ができるか、これからの生き方を考える機会として、NPO団体などを訪問しているとのことでした。

まず、①骨髄移植と骨髄バンクの概要、②全国協議会結成と経過、③活動の3つの柱を説明し、その後に生徒さんからの質問に答えました。みなさん一人ひとりから質問があり、熱心で楽

しい時間となりました。参加した生徒さん方から手紙が届きましたので、その一部を紹介します。

「ドナーが足りていないと言っていたので、18歳になったらドナー登録を考えたいと思いました」「発病後間もない患者さんやご家族のために役立つ情報を本にして出していたこと。白血病フリーダイヤルやニュースレターなどの、いろいろな活動は思いやりのある行動ばかりだと思いました」「イベント開催やキャンペーングッズなどで多くの人に知ってもらいたいという思いが伝わり感動しました。コーディネーターが少なくという理由が、まだ職業として知られていないことも分かりました。早く患者さんを助けられるようにして欲しいです」「特に印象に残ったことは、患者さんを経済的に支援する活動です。寄付を基に行われているようですが、自分も寄付してみようと思いました」「私も大人になったらドナー登録をして、病気にかかってつらい思いをしている人を助けたいと思いました」「アメリカでのテロ事件9・11の時の話は知りませんでした。全米の空港が止まり日本へ骨髄液を届けられない、どんな状況でもあきらめずに、飛行機をチャーターして運んだ話に感動しました。」「印象に残ったのは、命のバトンの話を聞いてから、自分にも何かできないか?家に帰ってからもずっと考えこんでいました。これからの学校生活でも、誰かのために努力して行きたいと思いました」

「アメリカでのテロ事件9・11の時の話は知りませんでした。全米の空港が止まり日本へ骨髄液を届けられない、どんな状況でもあきらめずに、飛行機をチャーターして運んだ話に感動しました。」「印象に残ったのは、命のバトンの話を聞いてから、自分にも何かできないか?家に帰ってからもずっと考えこんでいました。これからの学校生活でも、誰かのために努力して行きたいと思いました」

賛助会員の皆さま紹介(敬称略)

【一般賛助会員】

骨髄バンク長野ひまわりの会=長野▽高橋信雄、匿名=岐阜▽村上珠里=宮崎

【サポート会員】

匿名=宮城▽西田廣雄=岐阜

「再生医療用iPS細胞ストックへの協力」を ドナー登録会で説明しているみなさまへ(投稿)

2月6日(火)開催された「AMED再生医療公開シンポジウム」に参加しました。冒頭、山中伸弥先生から「iPS細胞 革新的医療を目指して」と題した特別講演があり、この中でiPS細胞のストック計画の現状が紹介されました。日頃、ドナー登録会で活動されている説明員のみなさま方に、参考になると思い以下に概要を報告します。

移植に使用するiPS細胞を患者さん本人から作成した場合、期間は約1年、費用は約1億円かかる。これでは実用化は難しいので、iPS細胞のストック(事前に作成保存)を計画した。

これはスーパードナーから、血液を採取し、あらかじめiPS細胞を作成し

ておいて、それを提供するもの。(注スーパードナーとは、拒絶反応が起きにくいHLA型の組み合わせ・HLAホモ接合体を持つドナーの方のことです。)

輸血時のO型のイメージである。この型を持つ方は日本人の500人~1000人に1人いる。現在第1位のスーパードナー(日本人に最も多い頻度のHLAタイプ)と第2位の頻度のスーパードナーについて行っており、これで日本人の約24%、3000万人がカバーされる。

この方法により作成されたiPS細胞は、2017年3月28日に網膜細胞の異常(加齢黄斑変性症)を発症した患者さんに実際に使用されている。

次の段階は、第3位~第5位の頻度のスーパードナーについて、実施する予定で、これで日本人の約40%をカバーする。順次6位以下14種のHLAタイプについて行い、約54%をカバーする予定である。

以上がストック計画の現状紹介でしたが、講演の中で1枚の写真が映されました。これは患児と山中先生およびスタッフが人差し指1本を出してアピールしているものでした。みなさま、これは何をアピールしていると思われますか?

1本の指は、「一日も早く治療法を開発確立」する意味との紹介がありました。山中先生は良くテレビなどでご覧になると思いますが、一日も早く、iPS細胞の研究で病気を克服したいという先生の気持ちがひしひしと感じられる講演でした。(千葉の会 溝口)

学会でPRブース設置、ポスター発表



2月1日(木)～3日(土)までの3日間、札幌市において第40回日本造血細胞移植学会総会が開催されました。雪まつりを控えた真冬の札幌の学会に、全国から2900人以上が参加し大盛況の総会でした。

全国協議会は、例年通りPRブース設置とポスター発表を行いました。ポスターでは、「移植患者の経済的状況

について野村正満副会長が発表し、「患者支援基金の現状と問題点」については田中重勝理事長が発表しました。それぞれ、患者さんが置かれている厳しい経済的状況をアピールしました。

地元の北海道協会は、3日間にわたり全国協議会のブース設置とPR活動等に札幌支部が協力下さいました。患者さん向けのハンドブック「白血病と言われたら」も500セット配布することができました。ありがとうございました。



北海道

学会の市民公開講座に協力

造血細胞移植学会からの要請により「市民公開講座」の企画のお手伝いをしました。今回の公開講座は「血液がんの治療をのりこえる」というテーマとなり、GVHDへの対応が取り上げ

られました。皮膚の色の变化などに対処するカバーメイク、食事・栄養について治療の影響で食べられないときの対応方法という、闘病生活の苦しみを和らげる、患者さんにとって医療とはまた別の面から日々の役に立つ内容となりました。

北海道協会は、集客についても担当して事前PRに努めた結果、市民公開講座への参加者は立見席が出るほど



で、用意した配布サンプルの倍以上の340人超の大盛況となりました。本当に良かったです。(北海道 K)

兵庫

高校生軽音楽コンテスト2017開催

12月17日(日)に、姫路地区骨髄バンク設立25周年記念として、初めてのこころみで、播磨地区の「高校生軽音楽コンテスト2017」を開催しました。これまで毎年恒例のクリスマスコンサートとして、中高生の吹奏楽部にご出演いただいておりますが、今年はまた違った内容で開催しました。

高校4校・5バンドが参加してください、また「フル天」オヤジバンドに特別出演いただきました。とても楽しい時間となりました。これからも、若い世代に色々なかたちで骨髄バンクを知っていただけるように考えていきたいと思います。

《コンテストの結果》

姫路地区骨髄バンク賞：

姫路工業高校「Take IV」

国際ソロブチミスト姫路賞：

飾磨高校「ちい恋グループ」

姫路さくらライオンズクラブ賞：

飾磨高校「フレンズグループ」

神戸新聞社賞：



別所高校「holiday apartment」

(姫路推進センター 濱田恵子)

敢闘賞：琴丘高校：ネコニナル

心からのご寄付に感謝申し上げます ●1月21日～2月20日(敬称略)

●一般 株式会社 THINK フィットネス 現金 465,068 円 株式会社 THINK フィットネス 現金 180,176 円 株式会社セルテック・リフレ 現金 418 円 塩谷 泰人 現金 1,000 円 鈴木 純子 現金 1,348 円 遠藤 充 現金 717 円 匿名 現金 5,000 円	●佐藤さち子患者支援基金 ブルデンシャル生命保険株式会社 現金 3,210,000 円 公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 現金 9,696 円 ●志村大輔基金 学校法人アトメント会 聖ヨゼフ学園中学・高等学校 現金 23,060 円 サンパウロ日本人学校同級生有志 現金 5,000 円 児玉 知之 現金 10,000 円	築瀬 知雅子 現金 5,000 円 庄子 敏子 現金 5,000 円 ●こうのとりマリーン基金 品川明るい社会づくりの会 現金 50,000 円 ●募金箱 株式会社クスのアオキ 現金 490,762 円 イオン九州株式会社 イオン都城店 現金 4,550 円 ●かざして募金 現金 2,200 円
---	--	--

活動資金の支援をお願いします

銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 普通 5666655

郵便振替口座 00150-4-15754

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会